

令和元年度「はばプラ推進校」 公開授業研修会



令和2年 1月16日(木)

館林市立第一小学校

館林市立第一小学校

- ・児童数・・・552名 職員数・・・41名
- ・学級数・・・21学級
- ・合い言葉
- ・卒業生



体力向上

「一小健康レボリューション」



体力向上優良校(H29)
市駅伝大会男女優勝(R1)

花と緑あふれる学校



花壇コンクール市長賞受賞(R1)

活発な委員会活動



邑楽館林学校保健大会一位(H30)

地域との交流



特配教員等の活用

- 1 はばプラ特配
= 学力向上コーディネーター
若手教員の参観指導、示範授業、
TT指導と資質向上研修講師、6年担任
- 2 英語専科特配
3～6年外国語活動担当
→教員の負担軽減＝放課後の時間確保
- 3 特別支援特配(病弱学級開設)

特配教員等の活用

4 算数専科

4, 5年のTT指導

＝示範授業→若手教員の指導、助言

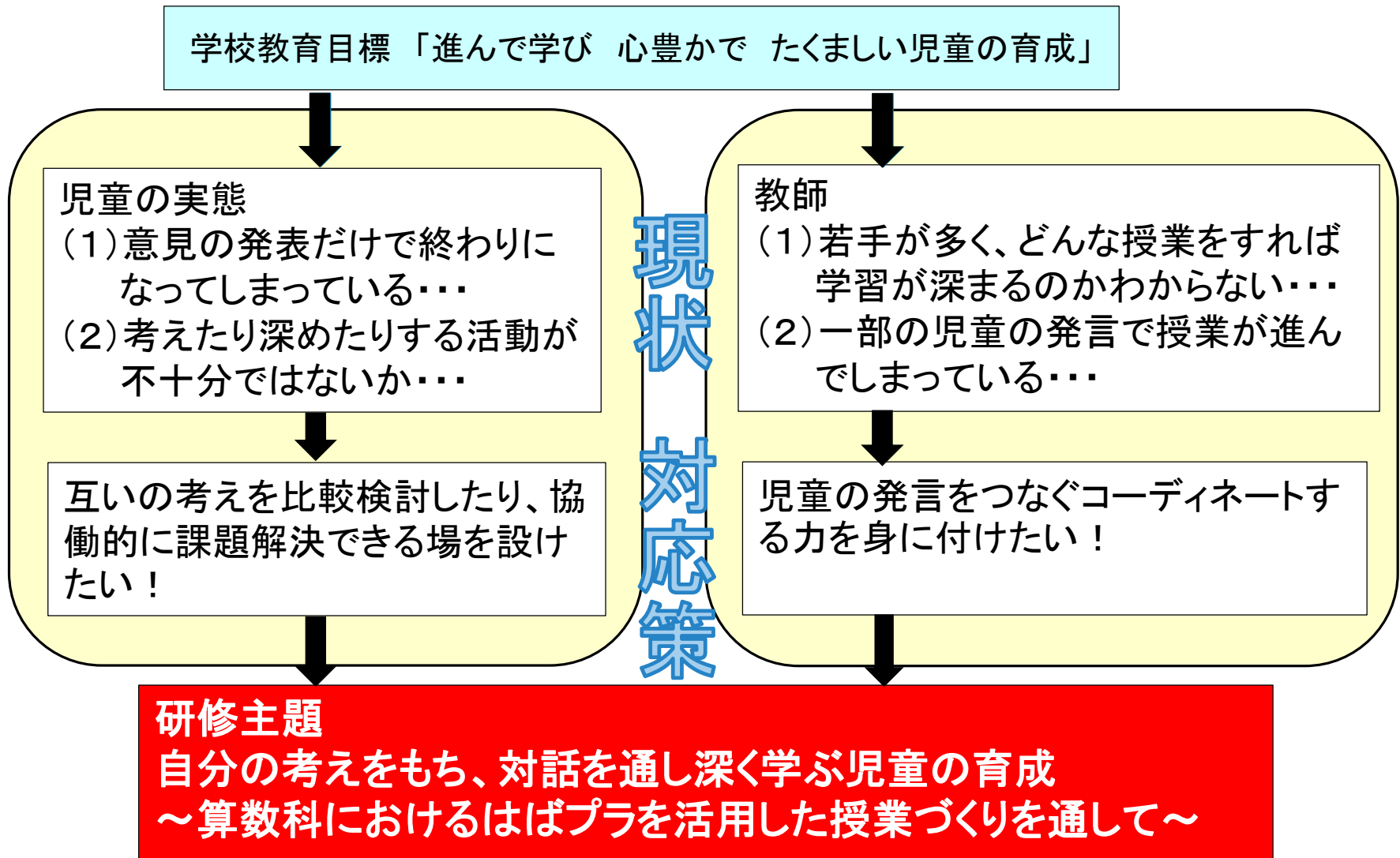
5 小中連携特配

第一中学校籍(兼務)数学教員

→週1時間6年のTT



1 研修主題設定までの流れ



はばたく群馬の指導プランを活用し、指導力を高めていく研修

2 具体的な手立て・実践

(1) イメージの 共有化

2-(1) イメージの共有化

はばプラの授業とは何か？

① 東部教育事務所指導主事による「はばたく群馬の指導プランⅡ」を基にした「授業の進め方」についての説明会→共通理解

児童の発言は区切り、
他者へとつなげていく
工夫が大切です。



2-(1) イメージの共有化

②学力向上コーディネーターによる「はばたく群馬の指導プラン」を基にした模擬授業

→日々の授業での実践

全体で考え、対話的で深い学びを目指しましょう。



2-(1) イメージの共有化

③年2回の代表授業

第1回 6年「分数のわり算」 6/19

分数÷分数の計算の仕方を考え、説明する。

成果

- 既習事項や見通しを基に、自力解決で一人一人が考えをもてた。
- 教師や友達との対話を通して、全員参加の授業ができた。

課題

- 子どもからまとめを引き出すための工夫



2-(1) イメージの共有化

第2回 1年「ひきざん」 11/5

くり下がりのあるひき算のやり方を考え、説明する。

成果

- 具体物の活用や既習事項との比較を通して、児童の主体的な学びを引き出していた。
- ペアで発表させたり、友達の考えを繰り返させたりして、定着を図った。

課題

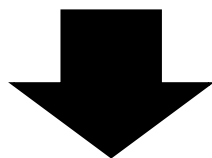
- 子どもの考えを生かすための板書の工夫



2-(1) イメージの共有化

はばプラⅡが示しているもの

「主体的・対話的で深い学び」
にするための授業づくりの基本



これを基に新しい学習指導要領が
示す授業の具現化を目指した。

2-(1) イメージの共有化

はばプラⅡをもとにした一単位時間の作り方

- ① 問題の確認
- ② めあての設定
- ③ 方法・結果の見通し
- ④ 個別追究(短時間)
- ⑤ 全体共有
- ⑥ 考えを深める
- ⑦ まとめ
- ⑧ 適用問題・振り返り



2-(1) イメージの共有化

①問題の確認

・提示の工夫

・・・「少しずつ」「かくして」、具体物の活用

→ 既習事項との比較。

→ 類似点や相違点を見つける。

→ 児童から問いを引き出す。



②めあての設定

・児童の問い(疑問や気づき)を生かす。

・児童とともにつくる。

2-(1) イメージの共有化

③方法・結果の見通し・・・どんなやり方でやればよいか

- ・既習事項をもとに
- ・表現の仕方(式、図、数直線・線分図、言葉など)

④個別追究(短時間)

- ・どのような解決方法で追究しているか見取る。
- ・早い児童には複数の解決方法で。
- ・個別支援の必要な児童はいるか。
→既習事項や掲示物などを手がかりにさせる。
- ・どのような順番で児童に発表させていくか。
- ・つまずきを把握し、全体共有に生かす。

2-(1) イメージの共有化

⑤全体共有・・・新たな考えに気づけるように

- ・複数の考え方を検討していく。
- ・推測させる。
 - 図や式を板書し、考え方を説明させる。
 - 言葉で説明し、式や図を考えさせる。
- ・教師は児童の言葉をつなげていくコーディネーター
 - 発言を区切り、他の児童へつなげていく
 - 他者に説明させる。問い返す。繰り返す。
- ・説明に慣れさせる → **全員参加を促す。**
 - ペアで説明。説明の例を示し、練習させる。

2-(1) イメージの共有化

⑥考えを深める・・・学びを広げ、深める。

- ・比較・検討の視点を決める。

- 序列化型・・・簡潔性、明瞭性、正確性

- 「最も簡単な方法はどれでしょうか。」

- 一般化型・・・共通点や相違点

- 「それぞれに共通していることはなんですか。」

- 独立型・・・それぞれの方法のよさ

- 「それぞれにどんなよさがありますか。」

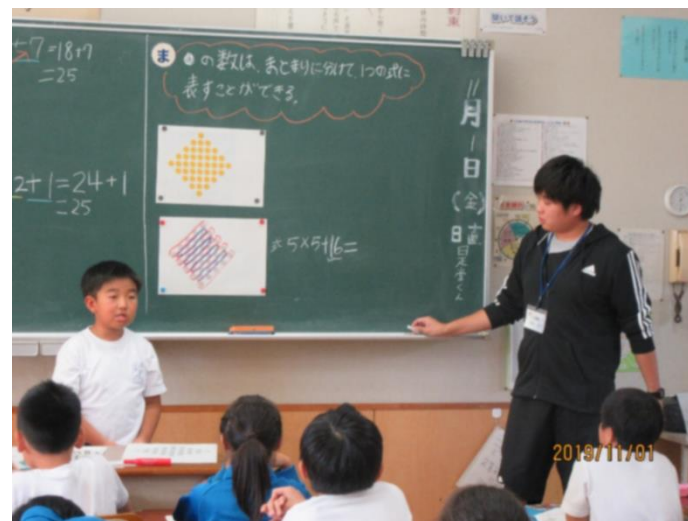
- ・発問や切り返しの準備

2-(1) イメージの共有化

⑦まとめ・・・児童の言葉を使ってまとめる。

⑧適用問題・振り返り

- ・学んだことの整理
- ・次時につながる疑問や気づき
→振り返る視点を明確に



2 具体的な手立て・実践

(2) チェックリスト 25の活用

2-(2) チェックリスト25の活用

館林市立第一小学校

5 月分 はばたく群馬の指導プラン チェックリスト25 氏名

No.		5月
1	児童生徒が疑問や意見を安心して発言できる雰囲気作りに努めている。	
2	一人一人の顔を見て、名前に敬称を付けて呼んでいる。	
3	話し方や聞き方など、学習のルールや学び方を指導している。	
4	整理整頓を心掛け、学習しやすい教室環境が整っている。	
5	単元(題材)の中の本時の位置づけを意識して授業を構想している。	
6	児童の実態を基に、ねらいを達成するための手立てや発問を考えている。	
7	1時間の学習の流れを意識した板書計画を立てている。	
8	授業の開始時刻と終了時刻を守っている。	
9	楽しくわかりやすい授業を目指し、熱意をもって授業を行っている。	
10	児童に対して、受容的・共感的に接している。	
11	導入では、魅力ある教材や資料の提示により、意欲を引き出す工夫をしている。	
12	児童がめあてや学習課題をしっかりとるようになっている。	
13	児童に予想や仮説を立てさせ、課題解決への見通しをもてるようになっている。	
14	児童が考えたり活動したりする時間を十分に確保している。	
15	目的をもって机間指導をし、一人一人の学習状況を把握している。	
16	児童が学び合う場を設定し、考えを深めたり広げたりしている。	
17	児童の多様な考えを引き出すような発問の工夫を行っている。	
18	意図的な指名を行い、一人一人の考えを生かすようにしている。	
19	ノートには、学習内容や自分の考えをわかりやすく整理するように指導している。	
20	終末では、身に付けた力を実感できるように本時の学習を振り返らせている。	
21	学習したことを日常生活と関連づけるように工夫している。	
22	学習内容やねらいに応じて学習形態を工夫している。	
23	ICT機器を積極的に活用し、楽しく学習に取り組めるようにしている。	
24	一人一人の理解の状況を把握している。	
25	授業の振り返りに活用し、指導に役立てている。	

A~Dで評価

「はばたく群馬の指導プラン」
p132・133



よかった点

反省点

翌月の努力点

よかった点	
反省点	
翌月の努力点	

2-(2) チェックリスト25の活用

月末に振り返り、1ヶ月の取り組みの中で見えた課題点を把握し、翌月の取り組みに生かしていけるようにする。

5月

9月

12月

館林市立第一小学校

館林市立第一小学校

館林市立第一小学校

5 月分 はばたく群馬の指導プラン チェックリスト25 氏名 _____

9 月分 はばたく群馬の指導プラン チェックリスト25 氏名 _____

12 月分 はばたく群馬の指導プラン チェックリスト25 氏名 _____

No.	5月
1	B
2	A
3	B
4	B
5	A
6	B
7	B
8	B
9	A
10	A
11	C
12	B
13	B
14	B
15	B
16	B
17	B
18	B
19	B
20	B
21	B
22	B
23	B
24	B
25	C

No.	9月
1	B
2	A
3	A
4	A
5	B
6	A
7	A
8	B
9	B
10	A
11	B
12	B
13	B
14	B
15	A
16	B
17	B
18	B
19	B
20	C
21	C
22	C
23	B
24	B
25	C

No.	12月
1	A
2	A
3	A
4	A
5	A
6	A
7	B
8	B
9	A
10	A
11	B
12	A
13	B
14	B
15	A
16	B
17	A
18	A
19	A
20	B
21	B
22	A
23	B
24	B
25	B

評価 A:よくあてはまる B:だいたいあてはまる C:少しあてはまる D:あてはまらない
 校内研修のテーマである対話的な学びを意識し、児童の多様な考えを聞き出すような授業の流れを意識して取り組みました。そのためには、教師自身が様々な対話的な発問や問いを工夫して取り組みることができています。児童の興味関心が持てるような導入の工夫が不足していません。

評価 A:よくあてはまる B:だいたいあてはまる C:少しあてはまる D:あてはまらない
 ネームプレートを活用し、一人一人の発言状況を把握し、全員が発言できるように工夫しました。

評価 A:よくあてはまる B:だいたいあてはまる C:少しあてはまる D:あてはまらない
 授業の最後に感想発表だけでなく、こちらから児童に問いかけたり、児童の考えを聞き出すための発問の仕方に課題が見られました。振り返りの時間を意識してとるようにした。

児童の意欲を引き出す導入の工夫が課題...

導入は工夫できてきたが、振り返りの充実が課題に！

振り返りができてきた！

2-(2) チェックリスト25の活用 月ごとの推移(5~12月)

※最高値 4.0

	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	増減
児童生徒が疑問や意見を安心して発言できる雰囲気作りに努めている。	3.0	3.2	3.4	3.2	3.5	3.6	3.6	0.6
一人一人の顔を見て、名前に敬称を付けて呼んでいる。	3.5	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	3.7	0.3
話し方や聞き方など、学習のルールや学び方を指導している。	3.0	3.4	3.3	3.4	3.5	3.7	3.6	0.7
整理整頓を心掛け、学習しやすい教室環境が整っている。	2.8	3.1	3.2	3.0	3.3	3.3	3.3	0.5
単元(題材)の中の本時の位置づけを意識して授業を構想している。	2.8	2.9	3.3	3.0	3.3	3.3	3.2	0.5
児童の実態を基に、ねらいを達成するための手立てや発問を考えている。	2.7	3.0	3.0	3.0	3.2	3.2	3.1	0.5
1時間の学習の流れを意識した板書計画を立てている。	2.6	2.9	2.9	2.9	3.0	3.0	3.0	0.4
授業の開始時刻と終了時刻を守っている。	3.0	3.5	3.5	3.4	3.5	3.6	3.5	0.6
楽しくわかりやすい授業を目指し、熱意をもって授業を行っている。	3.1	3.2	3.3	3.2	3.3	3.5	3.4	0.4
児童に対して、受容的・共感的に接している。	3.2	3.2	3.2	3.3	3.3	3.4	3.4	0.2
導入では、魅力ある教材や資料の提示により、意欲を引き出す工夫をしている。	2.6	2.7	2.6	2.9	3.1	3.2	3.1	0.6
児童がめあてや学習課題をしっかりともてるようにしている。	3.0	3.0	3.0	3.0	3.2	3.3	3.2	0.3
児童に予想や仮説を立てさせ、課題解決への見通しをもてるようにしている。	2.5	2.7	2.6	2.7	3.0	2.8	2.8	0.5
児童が考えたり活動したりする時間を十分に確保している。	2.9	3.0	3.0	3.2	3.4	3.3	3.3	0.5
目的をもって机間指導をし、一人一人の学習状況を把握している。	2.8	3.0	3.0	3.0	3.2	3.2	3.2	0.4
児童が学び合う場を設定し、考えを深めたり広げたりしている。	2.5	2.7	2.8	2.8	2.9	3.0	2.9	0.5
児童の多様な考えを引き出すような発問の工夫を行っている。	2.5	2.6	2.6	2.6	3.1	3.0	2.8	0.6
意図的な指名を行い、一人一人の考えを生かすようにしている。	2.8	3.0	3.0	2.9	3.4	3.1	3.3	0.6
ノートには、学習内容や自分の考えをわかりやすく整理するように指導している。	2.3	2.7	2.7	2.8	3.0	3.0	3.2	0.9
終末では、身に付けた力を実感できるように本時の学習を振り返らせている。	2.3	2.3	2.4	2.3	2.6	2.9	2.9	0.6
学習したことを日常生活と関連づけるように工夫している。	2.5	2.4	2.4	2.7	3.0	2.8	2.9	0.6
学習内容やねらいに応じて学習形態を工夫している。	2.5	2.8	2.9	2.8	3.0	3.1	2.9	0.6
ICT機器を効果的に活用し、楽しく学習に取り組めるようにしている。	2.2	2.5	2.5	2.5	2.5	2.6	2.6	0.4
ノートやワークシートにより、児童一人一人の理解の状況を把握している。	2.9	3.0	3.0	2.9	3.2	3.2	3.1	0.3
教師自身の授業評価を行い、次時の指導に役立てている。	2.5	2.8	2.9	2.8	3.0	2.9	3.0	0.5

2 具体的な手立て・実践

(3) チームによる 授業改善

2-(3) チームによる授業改善

算数科指導に係る指導体制



1 はばプラ特配教員

- ・学力向上コーディネーター
- ・週3時間の指導の時間
(若手教員へ参観指導、示範授業、TT指導、
放課後個別に助言)
- ・資質向上研修の講師
- ・模擬授業

2 算数専科教員

- ・4、5年TT指導
(4、5月はT1で、6月からT2で教員への指導も)
- ・授業準備 = ワークシートの作成など
- ・テストやドリル等の採点

3 小中連携特配 (第一中学校籍=兼務発令)

- ・週1時間:6年TT指導

2-(3) チームによる授業改善

実践的な模擬授業 (全体・ブロック)

要請訪問に向けた、児童とのやり取りを想定した授業検討

模擬授業を通して、想定される児童の発言を出し合い、それに対する授業展開を計画する。

模擬授業の検討を基に、授業実践を行う。



「児童役の先生達からアドバイスをもらい、
児童の発言をつなぎやすくなったな。」
「児童への言葉を選んで話せるようになったぞ。」

2-(3) チームによる授業改善

共通の課題設定 (校内研修の時間で)

チェックリストから学年の課題を洗い出す。

→翌月の課題を設定

来月は子どもたちが一時間で学んだことを振り返る時間を意識して確保していきましょう。

振り返りの時間を確保していくことが難しいです。



2-(3) チームによる授業改善 授業改善シートの活用

共通の課題→具体的な手立て→結果の考察

6 年生 6 月の実践

短時間でできるよう、
項目を最低限に

学年の課題

20

終末では、身に付けた力を実感できるように、本時の学習を振り返らせている。

改善のための手立て

授業の最後に学習内容を確認し、適応問題を取り入れ、振り返りを行う。

結果の考察は
翌月に行う。

結果

振り返りは意識して取り入れられる時間もあったが、適応問題は毎時間は入れられず十分とは言えない。

2 具体的な手立て・実践

(4) 授業構想 シート

2-(4) 授業構想シート

短時間でできるよう、
項目を最低限に

算数科授業構想シートⅡ

令和元年 7月 5日 (金) 第 4 校時

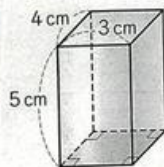
授業者

6年 単元名 角柱や円柱の体積の求め方を考えよう 15 時

ねらい	学習内容	四角柱(直方体、立方体)の体積の求め方について
	手立て	高さ1cmの四角柱の体積と底面積を表す数を比べさせることにより
	身に付けさせたいこと	底面積×高さで求めらることを説明できる。

<板書計画>

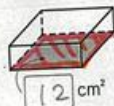
① 四角柱(直方体)の体積の求め方を考えよう。



直方体の体積 = 長さ × 横 × 高さ
 $4 \times 3 \times 5 = 60 \quad 60 \text{ cm}^3$

高さ1cmの四角柱の体積

底面積(底面の面積)



$4 \times 3 \times 1 = 12$ $4 \times 3 = 12$
 数は等しい

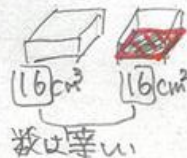
$\frac{4 \times 3 \times 5}{\text{底面積} \quad \text{高さ}}$



② 四角柱の体積 = 底面積 × 高さ

③ 四角柱(立方体)の体積
 立方体の体積 = 辺 × 辺 × 辺
 $4 \times 4 \times 4 = 64 \quad 64 \text{ cm}^3$

高さ1cmの四角柱の体積は
 $4 \times 4 \times 1 = 16 \text{ (cm}^2\text{)}$
 底面積は $4 \times 4 = 16 \text{ (cm}^2\text{)}$
 高さ1cmの四角柱の体積と底面積を表す数は等しいから



$4 \times 4 \times 4 = 64$
 底面積 × 高さ で求めらる。

④ $\frac{(3+7) \times 4 \div 2 \times 5}{\text{底面積}} = 100 \quad 100 \text{ cm}^3$

2-(4) 授業構想シート

「児童の活動を明確にした具体的なめあての設定」
＋「子どもの反応をおさえた板書計画」を目指して

「はばたく群馬の指導プラン・実践の手引き」p33より



「具体的なめあての設定」

①学習内容



②身に付けさせたいこと



③手立て

3 先生方の声 ①

- ・児童が発言しやすい雰囲気を作るために、どんな発言でもまずは受け入れる姿勢をとったり、学習の形態を工夫したりすることで、**自信を持って発言**をするようになった。
- ・一対一のやりとりにならないように、**繰り返し聞いたり、全員に挙手をさせて自分の意見を示させたりと、授業の工夫**ができた。
- ・児童一人一人の発言を生かせるように、**リレー形式の発表や意図的指名**を取り入れた。
- ・児童同士が**話して問題を解決**する場が増えてきた。

3 先生方の声 ②

- ・T2として、T1の補助や苦手意識のある児童への支援に努めた。**発表ができる児童も増えてきた。**
- ・授業研究会において、**明確な視点**をもって意見交換を行うことができるようになった。
- ・模擬授業のおかげで、児童の発言をつなぎやすくなった。
- ・しっかり準備したら、算数の授業が楽しみになった！



4 成果と課題

成果 (教員の視点から)

・はばプラの模擬授業を繰り返し行ったことで、**全体で授業イメージの共有**ができた。

手立て(1)

・チェックリスト25をもとに振り返ったり、学年ごとに目標を設定したりしたことで、日々の授業において、**課題に基づいた実践**を行うことができた。

手立て(2)

・**学年で授業の相談**をすることにより、授業・教材研究が深まった。

手立て(3)

・構想シートを使うことで、短時間で**授業の流れ**が整理しやすくなった。

手立て(4)

4 成果と課題

成果 (子どもの変容から)

- ・子どもたちも、見通しを持って、授業に取り組むことができるようになった。
- ・短く区切って発表を繰り返していくことで、活躍できる児童が増え、全員が参加できる交流になってきた。
- ・TTで指導することで、一人一人の児童を細かく見取ることができた。それにより、児童も自信を持って挙手する児童が増えてきた。
- ・各教科のまとめを授業中も家庭学習においても子どもたちが計画的に取り組むようになり、授業のノート、自学帳の内容に成長が見られた。

課題

- ・児童の実態に合わせた授業展開の工夫。
 - 実態の理解（既習事項、授業へ取り組む姿勢など）
- ・授業検討や模擬授業は教員の指導力向上につながるが、研修時間をどこで生み出すか。
 - 授業や単元を絞って。
 - 校内研修や学年会の中で効率的に。
- ・「対話的な学び」を、どのように他教科に生かしていくか。
 - 算数で行ったことは、他教科のどの場面で有効か。
 - 他教科の「はばプラ」指導のイメージの共有化。